

# 第5号

○令和7年度  
・第5回理事研修会



発行  
北海道小学校長会  
札幌市中央区北5条西6丁目  
第二北海道通信ビル306号室  
TEL 011-218-9850  
FAX 011-218-9851  
e-mail:h.s.k-32@dousho.jp  
https://www.dousho.jp/

## 令和7年度第5回理事研修会

☆令和8年2月27日(金)  
14時30分より  
☆ホテルライフオート札幌

### 【報告事項】

- 全連小第252回理事会の報告について
- 教育情報について
- 会務報告・各部の活動について
- 第78回全連小北海道大会・第69回道小札幌大会の進捗状況について
- 全連小対策・調研担当者連絡協議会の報告について
- その他

### 【道教委行政説明】

- 義務教育課より2点
- 特別支援教育課より2点
- 教職員育成課より4点
- 健康・体育課より1点
- 生徒指導・学校安全課より4点
- ICT教育推進課より1点
- 道立教育研究所より1点

### 【協議事項】

- 第78回全連小北海道大会・第69回道小札幌大会の全体会・分科会について
- 第69回総会・研修会について
  - ・第69回総会・研修会の日程・議案及び令和7年度会務報告について
  - ・令和7年度会計決算・監査報告、令和8年度一般会計予算(案)について
  - ・令和8年度北海道小学校長会活動計画(案)について
  - ・総会宣言文について
- 第69回総会・研修会までの諸計画について
  - ・総会・研修会までの地区校長会代表者の報告について
  - ・総会宣言文起草委員の選出について
  - ・総会・研修会議長の選出について
  - ・全連小総会代議員の選出について
- 令和8年度の要望活動について
- 今後の地区別教育経営研修会について
- 令和8年度道小役員の選考について
  - ・会長並びに事務局長の選考について
  - ・副会長並びに監査委員候補者の選考について
  - ・地区代表の理事候補者の選出について
- その他

### 【連絡】

- 第78回全連小北海道大会の参加申込みについて
- 令和8年度組織のための諸報告について
- 総会・研修会出席代議員への案内状の配付依頼について
- 総会・研修会開催要項の配付依頼について
- 令和8年度の市町村別学校数(会員数)について
- 役職定年等を迎える会員の感謝状及び記念品について
- 令和8年度諸会議予定(道小・全連小)について
- その他
  - ・全連小バッジについて
  - ・総会・研修会、正副会長研修会、第1回理事研修会について

## 1 開会の言葉 …………… 豊田 央 副会長

各学校では、年度末の卒業式を目前に控えている中、通知表業務や感染症の課題対応等、慌ただしい毎日をお過ごしのことと思う。



さて、私は年度初めに依頼された原稿に「田邊丸の安全な航海のために、役員が役割を果たすことが肝要である」という内容を書いた。お陰様で、目的地である港が間近に見えてきた。改めて一年間、ご尽力いただいた役員にお礼申し上げます。

今年度最後となる今日の理事会は、今年度の総括を行うとともに、来年度に控えている全連小研究協議会北海道大会という大航海に向けて重要な会議となる。終了まで、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 2 会長挨拶 …………… 田邊 芳明 会長

この1年を振り返り、私が何よりも感じているのは、「道小は、つながり、学び、挑戦していくことで、確実に前に進んできた」ということである。5月の総

会・研修会から始まり、5回の正副会長研修会と理事研修会、6月の全道会長研修会、8月の道教委との意見交換会・各課懇談会、そして、各地区での地区別教育経営研究会など、どの場面においても、副会長や理事がそれぞれの地区の声を丁寧にもち寄り、真剣に議論を重ねてくれた。その積み重ねが、北海道の教育を支えているのだと、1年の終わりが近づき改めて実感している。



さて、先週21日(土)、道公教創立60周年記念式典や祝賀会が行われた。私はその祝賀会で道小を代表して祝辞を述べさせていただきました。そこでは、道教委の中島教育長に、前回の理事研修会でお伝えした、「多学年学級担当手当」廃止に伴う不足分への道独自予算措置を講じていただいたことに対して、直接お礼を申し上げますことができました。中島教育長は、私どもからお伝えした「多学年学級担当手当」の廃止の話の基に、実際に複式学級の授業を視察し、二つの学年を同時に指導する現場の大変さを実感されたとのことであった。その上で、関係各所に働き掛けてくださったと伺った。私は、その話を聞きながら、「私たちの声は、確かに届いているんだ」と強く感じる事ができた。もちろん、一度で物事が変わるわけではないが、現場の実情を具体的に伝え、あきらめずに対話

を続けることで、状況は少しずつ前に向かって進んでいくことを、今回、強く実感することができた。実は、6月の全道会長研修会の会長挨拶の中で、「すぐに改善されない問題が多いかもしれない。しかし、声を出し続け、行政と共に考え続けることで、状況は変化していく」と申し上げた。今回のことは、その一つの確かな証であると受け止めている。

また、特例任用校長の拡大についても、一部の地区で前向きな動きがあるとの話が聞こえてきたので、そのことも中島教育長にお伝えした。校長として培ってきた経験を、役職定年後も北海道の教育に生かしていく。これは、北海道全体の教育力をどうつないでいくかという大切な課題であり、その方向性をしっかりと教育長とも共有することができたことと改めて強く感じる事ができた。

あきらめずに、状況を変化させるために、国や道に声を届けていくとともに、これからも様々なことに挑戦し続ける道小でありたいと思うところである。

それでは、会長資料について説明する。

全連小松原会長の資料、「はじめに」の全国大会の事前打合せ会についてである。去る1月23日、24日に京都で開催されたこの会は、福岡大会の成果と課題を協議し、今後の全国大会に引き継ぐ大切な会であった。今年度開催した福岡県、次年度の北海道、次の福島県、大阪府と各道府県から4人程度が出席した。北海道からは、私と稲上事務局長、山田事務局長、松本研修部副部長の4人が出席した。10月の北海道大会に向けて残りの期間でどのような準備が必要なのか、改めて確認することができた。「全連小大会のバトンをつなぐ～先を見通して～」については、この言葉のとおり、多くの方々が困難な状況の中でも研究大会をつないできてくださったからこそ今がある。そのことへの感謝の気持ちを改めて強くした。そして、北海道地区根室大会については「挑戦」というキーワードが記されている。松原会長は、昨年9月の道小教育研究根室大会において、開会式の中で私や根本大会実行委員長などを含め、様々な方の話の中で、「挑戦」というキーワードがたくさんあったことが、とてもすばらしかったと話していた。道小の今年度のスローガンは「笑顔のために つながり 学び 挑戦する道小」。根室大会では、その言葉が決して標語にとどまらず、運営の随所に息づいていた。新たな試みにも前向きに挑みながら、温かく参加者を迎えたその姿勢は、多くの校長の心に残ったことになる。改めて、根室管内校長会に心より感謝申し上げます。

次の「次年度に向けて」の資料には、令和10年度からの次期研究主題の周知や次期学習指導要領に関する全連小としての考えを整理し、しっかりと国に声を届けることなどが大きな取組となることを記載している。全連小第252回理事会については、後ほど玉腰副会長から報告していただくので、それに関する資料を掲載させていただきます。

理事会の中では、10月に開催する「北海道大会のご案内」として大会の参加、宿泊、教育視察等に関する申込み方法や、二日目の講演の講師を紹介させていただいた。

今年度は、私から全連小の会議等において北海道大会の説明を5回ほどさせていただいたが、そのたびに全国の校長から「北海道大会、楽しみにしています」「準備が大変だと思いますが、がんばってください

い」という声をたくさんいただいた。4月からははいよいよ大会実行委員会が立ち上がり、約200人近い札幌市小学校長会全員で準備を進めていく。もちろん道小もしっかりと連携を図りながら、北海道大会を楽しみにしている全国の校長のために、「つながり、学び、挑戦」していきたい。

本日は、報告、協議、行政説明などに加え、新年度の活動について検討・確認する重要な内容もある。また、会の終了後には、今年度をもって役職定年を迎える皆様との送別懇談会もあり長時間となるが、よろしくようお願い申し上げます。

**3 議長選出 …………… 根本 渉 副会長**

会則により副会長の輪番から第5ブロック 根本 渉 副会長を議長に選出。



**4 報 告**

**(1)全連小第252回理事会の報告について**

**……………玉腰 武 副会長**

2月12日、13日の日程で開催された全国連合小学校長会第252回理事会の内容について、限られた時間のため、5点に絞って報告させていただきます。



1点目は、報告事項の新全連小研究主題についてである。

令和10年度からの新研究主題は、「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す人財の育成を目指す小学校教育の推進」となった。現在の研究主題からの最大の変更点は「日本人の育成」を「人財の育成」にしたことである。「人財」という用語は、令和6年度徳島大会及び令和7年度福岡大会の大会副主題として使われており、「子どもたちは、その子そのものの内面の豊かさを含めて価値ある尊い存在であり、これからの日本を創り出していくかけがえのない存在として、一人一人が社会を構成し、関わり合う宝」としている。福井県からは、「日本人の育成」からの変更を歓迎しつつも、「人財」という用語について、「人材」「人在」「人罪」など様々な同音異義語があり、誤った理解を促してしまう危惧についての意見が出された。調査研究部長から、「改めて今回の変更点を理解してもらえようしっかりと伝えていく」との回答があった。

2点目は、報告事項の第78回全連小北海道大会についてである。田邊会長からは、「大会参加費は弁当代を含め8,000円。北海道らしいお弁当をとの声が数多くあり、その期待に応えるべく鋭意努力中である」と説明された。

3点目は、報告事項の震災等災害被災県より～仙台市校長会～についてである。仙台市小学校長会長から、レポートの説明後に、個人としての当時の回想が語られた。「3月11日は仙台市内の小学校で教務主任をしていたこと」「同年の4月に大川小学校の対岸の学校へ新任教頭として赴任したこと」「赴任一週目は、当時の校長が学校としての避難所運営と自衛隊員や消防署員、自治体職員等が担っていた行方不明者の捜索への協力を命じられ、長い棒を地面に差

し込み、違和感があった場合は、責任者に直ちに連絡していたこと」「4月下旬には、大川小学校で犠牲になった方々の合同四十九日法要が自校の体育館で行われたこと」についての話を聞き、テレビで見ていた検索作業に教職員も関わっていたことを知り、とてもショックを受けた。

4点目は、議事の令和8年度全国連合小学校長会活動方針についてである。松原会長から、前文において以下の4点を付加したと説明があった。

- ①令和7年6月、約50年ぶりとなる改正給特法が成立した。この改正は、全国連合小学校長会をはじめとする諸先輩の長年の取組の成果である。
- ②各自治体及び教育委員会と連携を図り、「新たな学校と教師の業務の三分類」を進め、必要な環境整備を行い、時間外在校等時間の縮減を着実に図る。
- ③全国連合小学校長会としての一体感と凝集性をより一層高め、組織を活性化させるための財政の健全化を進め、中・長期的なビジョンの下、各地区小学校長会、各都道府県小学校長会及び各政令指定都市小学校長会からなる都道府県単位の小学校長会との連携を更に密にして活動の充実に努める。
- ④次期学習指導要領の改訂に向けて、全国連合小学校長会としての考え方を整理するとともに、確実な情報集約と積極的な情報発信を一層充実させ、「国に声を届ける」活動を活性化させる。

5点目は、講演についてである。演題は「次期学習指導要領“論点整理”から学ぶ今後の学校経営の方向性」で、講師は、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長 栗山 和 大 様である。松原会長から、栗山様は京都府教育委員会に3年間出向されていたと紹介があった。また、論点整理の内容について、丁寧な説明があった。今後のスケジュールとしては、令和8年度の冬までに答申が出され、学習指導要領の改訂は次年度中に行われる。令和9～11年度の3年間は移行期間、令和12年度に小学校の完全実施となる。新学習指導要領については、構造化、表形式化で使いやすいものになるよう工夫がされ、作成中の「デジタル学習指導要領」の紹介では、参加者から感嘆の声が挙がっていた。質疑応答では、山形県から、「教科書の全てを指導しなければならないからである」との感想が出された。栗山室長からは、「高校入試について直接的には各都道府県教委が担うが、学習指導要領のねらいに対応した問題の作成が求められると考える」との回答があった。

## (2)教育情報について…… 稲上 敏男 事務局長

今回は2月号のダイジェスト版として、いくつかの記事を紹介する。

最初はAIに関する記事である。いずれも道通の記事だが、教育現場におけるAIの活用について紹介されている。

「美瑛町教委 生成AI利用指針 真偽確認 指導徹底を 教員の働き方改革促進も」の記事では、美瑛町教委が策定した、教育現場における生成AI利用のガイドラインについて記載されている。町教委は、学校において「生成AIと人との望ましい関係」を考える視点を持ち、各教科で生成AIを



使いこなす力を意識的に育てることが重要と認識。児童生徒の情報活用能力育成を強化するほか、校務にも活用することで教職員の業務効率化や質の向上を図って働き方改革にもつなげることを目的にガイドラインを策定した。活用に当たっては、事前学習の実施を要請。児童生徒に生成AIの性質やメリット・デメリット、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識させ、生成AIの出力を基に意味を理解して思考力を高める使い方ができるかなどを見極める指導を教職員に求めている。また、情報の真偽を確かめる（ファクトチェック）方法の指導も徹底する。教職員に対しては、町教委が提供する校務用パソコンで生成AIを業務（校務及び教育）に利用する場合に適用。有効な活用方法として、生成AIに入力する内容（プロンプト）によって回答結果が異なることがあるため「質問の条件（目的、背景、役割）を明確にする」「さらに条件を追加する」「回答の形式を指定する」などを挙げている。

また、札幌市立中央中学校では、生成AI技術を取り入れた体育科の授業改善を積極的に進めていることが紹介され、札幌市立発寒東小学校では、教員が機能を制限・調整できる「Gem(ジュム)」機能を活用した授業設計を構築して、児童が安全に失敗し、思考を深められる指導を徹底しているということが紹介されている。

生成AI活用については、まだまだ私たちが理解できていない部分も多くある。メリット・デメリットを理解し、生成AIを部分的な補佐として活用しながら、最終判断や調整は人間が行うことが大切なのではないかと感じている。

続いて「道教委 9年度教員採用選考 地域枠の要件見直し 採用後他管内勤務の原則廃止」の道通の記事である。道教委は、勤務する管内を限定して採用する「一般選考（地域枠）」について、採用後4年間は希望する管内以外で勤務する原則を廃止し、採用時から地域に根ざした教育を推進する。地域枠は、地域に根差した教育に対する意欲・情熱をもつ教員の確保を目指し、勤務する管内を限定して採用するもので、日高、宗谷、留萌、オホーツク、根室管内を対象にしている。昨年、関係市町村にアンケートを実施したところ「採用時から対象地域で勤務できるようにしてほしい」といったニーズが見られたことなどを踏まえ、この原則を廃止。採用時から希望する管内で勤務することとした。

最後は「道教委 学級担任への加算 複数担任制等も対象に 均等割した額を支給」の道通の記事である。昨年6月、教員の処遇改善などを図るため、給特法や教育公務員特例法等の関係法が改正された。公立学校の教職員に支給される義務教育等教員特別手当は給与月額平均1.5%から1.0%に引き下げられる代わりに、学級担任に月3,000円を加算する措置が新たに設けられた。道教委は、学級担任への加算の対象に、複数担任制等で学級運営に関わる教員も加える方針。担任する人数に応じて月3,000円を均等割りする。例えば、1学級を2人で担任している場合は月1,500円ずつ、2学級を3人で担任している場

合は月2,000円ずつが加算額になる。校務分掌上副担任等であっても、実質的に複数担任制等として学級担任と同等の業務を行っていることが確認できるものについては「学級担任」として取り扱う。各学校から支給対象者の報告を受けた上で、3月の給与支払い日に1、2月分を含め支給する見通しである。チーム担任制など、各校で様々な工夫をしながら教育活動を進めているが、どこまでを学級担任手当の支給対象とするのか、教職員が納得する形で伝えていくことが必要である。

この他にも、長期休業中の在宅勤務、教員育成指標の改訂、次期学習指導要領の検討状況、物価高で「隠れ教育費」が増えていること、中島教育長の8年度教育行政執行方針などの話題も載せているので目を通していきたい。

### (3)会務・各部の活動について

#### ①会務報告 ……………丸岡 哲也 事務局次長

12月の第4回理事研修会以降、本日までの会務について掲載している。道小及び全連小の諸会議や来年度の全国大会に関する会議等、予定された会議が滞りなく開催された。また、外部機関及び行政等主催の会議に参加したことを報告する。



#### ②各部の活動報告<次年度活動計画を含む>

##### 【経営部】……………矢藤 典彦 経営部長

令和7年度経営部活動報告及び令和8年度経営部活動計画案を説明する。経営部では、活動方針にある4点に沿って道中と連携しながら活動してきた。具体的には地区別教育経営研究会、道小・道中事務局員による合同学習会に関する業務、法制研究集録と学校経営の資料の作成である。その中から3点を中心に報告する。



1点目は「地区別教育経営研究会」についてである。今年度も、校長の職能向上に向けた研究会が各地区で行われたと報告を受けている。道小ホームページに掲載されているので確認いただきたい。各地区校長会の協力にお礼申し上げる。次年度の地区別教育経営研究会開催計画書はすでに道中から各地区担当者へ送っているため、理事より担当者へ再確認いただくようお願い申し上げます。

2点目は、法制研究集録についてである。本年度の第56集はデータ化し、ホームページに掲載する予定である。パスワードについては、この後、各地区にお知らせする。本集録については、管理職が条例・規則等諸法令に関わる課題に対処する資料として、また地教研での研究資料や校長の指導性を涵養するための資料として広く活用されることを切に願っている。

3点目は学校経営の資料についてである。この資料も地教研での活用に加え、日々の学校経営に関する資料としての活用をねらいとしている。今年度も活用価値のある内容にするべく、必要な事柄を厳選

し編集にあたった。今年度の経営部の活動への協力に感謝申し上げる。

来年度の地教研及び道小・道中合同研修会については八田副部長から提案する。

##### 【研修部】……………國行 宏昭 研修部長

令和7年度の活動報告である。今回は、12月以降について報告する。

1点目は、「地区研究活動」についてである。各地区から提出いただいた原稿を昨年12月に道小ホームページに掲載した。

2点目は、研究集録「小学校教育62号」についてである。12月末にそれぞれの地区に発送した。各地区の会員への配付にご協力いただき感謝申し上げます。

3点目は、「教育課程等に関する調査」についてである。3月には調査結果が「研究紀要」の冊子となって届くことになっているので、各学校で活用いただきたい。

その他の活動については、研修部の資料をご覧ください。

次に、令和8年度の活動計画について、主なものを説明させていただく。

研修部の活動の中核となるのは研究大会であり、10月1日～2日に開催される全連小北海道大会については、開催地実行委員会と連携を図りながら、大会の成功に向け業務を進めていく。各地区では、本日の研修部資料をはじめ、全連小福岡大会の大会要項や研究集録等を参考に、全連小北海道大会への参加体制の整備や、研究発表の準備等に取り組んでいただくようお願い申し上げます。準備に際して参考資料の不足や不明な点等については、道小研修部へ問い合わせいただきたい。なお、全体会・分科会については、この後の協議の中で研修副部長から説明する。

その他、令和8年度の研修部の業務としては、全連小の各種委員会の調査等のアンケート、小学校教育63号の発行、地区研究活動の交流、全連小北海道大会発表地区の支援等も、今年度と同様に取り組んでまいる。また、令和9年度の道小教育研究函館大会に向けての準備も精力的に進めていく。

##### 【対策部】……………野中 利晃 対策部長

令和7年度の対策部の活動について報告する。

1点目は「会員必携」の編集・発行についてである。道小の組織、活動計画、会則等の必要事項を見直しながら掲載し、全道各地区、各部、関係機関の協力を得て、5月末日に発行、6月上旬に全会員へ配付した。

2点目は「全道会長研修会」についてである。6月23日(月)にWeb開催し、計画・準備・当日の運営を担当した。各地区から事前に知らせていただいた話題の中から、「人材育成に関わること」「教育課程に関わること」「時代に即応する教育課題に関わること」の3点を共通話題として取り上げ、話し合いを進めた。各地区会長より、地区の実情をもとに具体的な意



見交流が行われ、各地区が抱える課題に対する取組や今後の課題等について共通理解を図ることができた。記録は、道小情報特別号に掲載した。

3点目は「全道調査」の実施についてである。4月に「期限付教諭配置状況調査」と、「広域人事に関する調査」を実施した。広域人事の調査結果はホームページに掲載し、参考資料としている。また、「役職定年者動向調査」を5月に実施し、調査結果については第2回理事研修会で報告し、道小情報特別号に掲載した。

4点目は令和8年度対策部活動計画案についてである。活動方針・業務内容は今年度とほぼ同様と考えている。4月より「全道調査」を実施し、広域人事に関する調査と期限付教諭配置状況調査、役職定年者動向調査を行う。役職定年者動向調査については3月中に該当の校長にお伝えする。5月末には、会員必携を発行する予定である。表紙については、根室地区へ依頼を行い、今年度もICTを活用した写真画像を掲載する予定である。また、6月には「全道会長研修会」をWeb開催にて計画・運営する。現在、各地区から送付いただいた会長研修会の話題提供を基に共通話題について検討中である。

1点お詫び申し上げる。空知地区の記載内容が、提出していた内容と違っていたため、訂正して検討・提案する。

**【情報部】 …………… 佐藤 等 情報部長**

令和7年度の活動報告と令和8年度の活動計画案について説明する。

1点目は、令和7年度の活動報告についてである。会報「教育北海道337号」については、3月中旬に発行する予定である。また338号についても3月初旬に情報部から各地区執筆者へ依頼する。「道小情報」については、1月末に第4号の電子版を発行し、第4回理事研修会の報告をした。最終号の第5号は、本日行われている理事研修会の報告となる。



道小ホームページについては、地区校長会だより、地区研究活動、第4回理事研修会の概要、地区別教育経営研究会報告などを掲載した。

全連小関係では、今年度、北海道小学校長会に割当てられた原稿等全ての報告を完了した。令和8年度の執筆依頼もすでに届き始めているが、分かり次第執筆依頼をする。

2点目は、令和8年度の情報部年間活動計画案についてである。来年度の理事研修会で提案、承認をいただくが、原稿依頼の関係もあり情報共有の意味で掲載しているの、これからの計画に役立てていただきたい。令和7年度同様、道小情報・教育北海道の発行、ホームページの充実、全連小との連携を中心とした活動を続けていきたい。また、来年度開催する全連小研究協議会北海道大会についての情報も、道小ホームページ等で積極的に発信していく。

**(4)第78回全連小北海道大会・第69回道小札幌大会の進捗状況について**

…………… 山田 健一 事務局次長

1月以降の内容等について概略を報告する。



1月23日には、京都市において全連小が主催する「全国大会事前打合せ会」が行われ、道小からは、私を含め田邊会長、稲上事務局長、松本研修部副部長が参加してきた。全連小からは松原会長、高瀬調研部長、小泉事務局長らが参加し、福岡大会実行委員会から3人、令和9年度開催地の福島県から5人、令和10年度開催地の大阪府から3人が参加した。

会の冒頭、全連小松原会長は挨拶の中で、「よく研究大会では『おもてなし』と言われるが、決して受け身ではなく、校長が学校経営上の正解を求めて探究する場である」と話されたことが印象に残った。「次期開催地の北海道大会では『挑戦』というキーワードを多く聞いてきた。そして、新しい試みをしながら学び合う校長の姿を道小根室大会で拝見し、刺激を受けた」といった、道小の取組に対する称賛をいただいた。また、事前打合せ会において、「北海道大会のご案内」「大会申込み要領」「原稿執筆要綱」等を提案し、賛同・了承を得られた。

特に大会申込みについては、今回の道小の方法(参加者一人一人がWebフォームから入力して大会申込みを完了する形式)を福島、大阪と連続性をもって取り組んでほしいと全連小からの後押しがあった。これら3点を大会の手引きとして活用いただくようお願いする。また、道小の理念「分科会の充実こそが最大のおもてなし」に則って、発表内容は個人研究ではなく、視点に沿って地区を挙げての共同研究の成果を発表すること、分科会運営者研修会を4回開催すること、全連小大会としては東京大会以来となる意見集約アプリを導入したICTを活用した分科会運営の計画など、道小の研究大会に対する考え方が了承された。

また、今年度大会を終えた福岡県からは、大会報告書と決算書に加えて、計画委員会から実行委員会に至るまでの全てのデータが格納されたUSBメモリをいただいた。次回の事前打合せ会には北海道大会の多くの成果物を持参し、全連小大会のバトンを福島大会へつなげていきたい。

…………… 石川 篤司 研究指名理事

これまでの6回にわたる事務局研修会及び25日に開催された第2回全連小準備委員会全体会の概略を報告する。



山田事務局次長から報告があった全連小事務局と道小事務局による全連小北海道大会における「北海道大会のご案内」「大会申込み要領」「原稿執筆要綱」等の確認・検討事項を共有した。それを受けて各部及び本大会にてご支援・ご協力をいただくJTB北海道事業部、近畿日本ツーリスト札幌団体旅行支店の2業者から進捗状況を報告し、今後の検討事項を確認した。また、次年度の実行委員会の立ち上げに向けての準備が始まった。道小の理念である「分科会の充実」とともに「円滑な大会運営」「参加者の目線に立った万全の体制」を目指し、札幌市小学校長会全連小が道小と協力して準備を進めていく。

25日に行われた、第2回準備事務局全体会では、60人が集まり、今年度各部で進めてきた準備状況や検討事項を全体で共有した。その後、各部に分かれて今年度の準備委員会における進捗状況の確認、次年度の実行委員会に向けての業務内容や具体的な動きなどを確認した。なお、3月12日にはエスコンフィールドにて講演講師との打合せを行う予定である。次年度は、札幌市小学校長会全会員197人が事務局員、実行委員として大会成功に向けて準備を進めていく。

…………… 村上 智樹 事務局次長



調研担当者連絡協議会について報告する。調研担当者連絡協議会の今年度の協議題は、「教員の資質向上に向けた取組」と「学習指導要領完全実施6年目に係る取組状況と課題」についてであった。資料は、北海道が全連小に提出した、協議題1と2に関する内容で、6月の全道会長研修会の際に、各地区から挙げていただいた声をまとめたものである。また、協議題1と2に関わる全国の状況について、全連小の高瀬調査研究部長がまとめたものである。

#### (5) 全連小対策・調研担当者連絡協議会の報告について …………… 稲上 敏男 事務局長

全連小対策担当者連絡協議会について報告する。北海道から提出した資料は、副会長と事務局幹事へのアンケートと全道会長研修会での協議内容からまとめたものである。全連小の飯塚対策部長がまとめた資料を中心に報告する。

まず、協議題1についてである。職層に応じた研修の実施状況と課題については、教員育成指標に基づいて、キャリアステージに応じた研修体系が構築されていることや、初任者や若手教員の育成を図る研修が手厚く設定されていることが分かった。一方、外部での研修を受講するために、学校の体制を整えることや人的な措置を行うことが必要となっている。

今年度の協議題の1点目は「特別部会の答申や改正給特法を踏まえて、学校における働き方改革や処遇改善について」であった。各地区での特別部会の答申や改正給特法についての受け止めとしては、50年ぶりの改正であり、「前進」「ようやく動いた」という評価の声が多かった。また、更なる要望として、教職調整額では「勤務実態に比べて不十分であり、更に引き上げをしてほしい」「段階的ではなく速やかに引き上げを行ってほしい」という意見が多い。

自地区におけるOJT体制等、人材育成の取組と課題については、校長の経営方針の下、ミドルリーダーが中心となって人材育成を行っており、校務分掌では、若手とベテランが組むことで、日常の業務を通して育成を図る取組が見られる。一方、全国的にミドル層が少なく、OJTを担う人材及び管理職が不足している傾向が見られ、ミドル層の育成を図ることが急務の課題となっている。

学校における働き方改革に効果があったことについては、専科教員の導入やICT支援員、スクール・サポート・スタッフ、特別支援教育支援員等の人的配置が挙げられている。課題としては、その専科教員の不足や欠員補充の遅れ、支援員の配置が不安定など、人手不足に関する声が多い。また、保護者対応の負担が重く、長時間にわたっての対応が必要になることも大きな負担となっている。

次に協議題2についてである。次期学習指導要領改訂を見据えた教育課程編成の工夫と課題については、カリキュラム・マネジメントにより地域と連携した特色ある教育活動が展開されており、カリキュラム・オーバーロードに対応するために行事の精選、授業時数や週時程の見直しを図り、余白を生む工夫が見られる。一方、柔軟な教育課程の編成、教科担任制の導入、子どもが自己調整する学びなどについて課題が指摘されている。

協議題の2点目は「地区の教員不足の状況と、当面の対応」である。教員不足については、年度当初の欠員は減少傾向にあるものの、年度途中の休職、退職等による教員不足が深刻化している。なかでも、若手教員の早期離職・病休が増えているが、採用倍率が下がっているため、講師の登録者が減少し、なかなか代替教諭が配置されず、主幹教諭や管理職が授業を受けもちながら対応しなければならない状況となっている。人手不足解消のためにも、教職員の量を確保しなければならない。北海道でも「みらいの教員育成プログラム」や「草の根教育実習」などの取組が広がっているが、大学との連携を進め、各学校で積極的に実習を受け入れて育成していくことが必要だと感じている。

デジタル学習基盤の効果的な活用については、1人1台端末の活用が進み、実践が積み上がってきており、働き方改革を見据えた校務DXの推進も図られている。一方、課題として、学校、教職員間におけるICT活用の格差、情報モラル、生成AI等の活用について検討課題が報告された。

三地区での協議を通して、改正給特法の効果を現場に定着させるには、人的配置、支援員の安定配置、業務適正化の三つが不可欠であることが明らかになった。全国の課題は北海道にも当てはまるが、北海道の広域性や小規模校の多さを考えると、担任外教員の定数を増やすなど、教職員定数そのものを増やした上で、加配を付けていく必要があると感じている。今後も北海道の声を全国に届けるため、各地区の声を聞かせていただきたい。

協議題1と2のいずれも、北海道各地区の課題は全国の課題でもあることが分かり、今後も全道各地区の声を聞かせていただき、それを全連小、そして国に届けてまいりたい。

#### (6) その他 特になし

### 5 協 議

#### (1) 第78回全連小北海道大会・第69回道小札幌大会の全体会・分科会について

…………… 松本 昌也 研修部副部長

北海道大会の概要について説明する。

北海道大会の主題、副主題、趣旨や日程の概要が記載されているが、10月1日に開会式、当面の諸課題、

分科会、2日に全体会、講演を予定している。会場等の詳細についても資料にて確認いただきたい。

次に、分科会マニュアルの分科会運営者研修会について説明する。北海道大会の分科会運営者研修会は、今年度同様、1回目から3回目は「Zoom」によるオンラインミーティングを活用して行う。大会前日の4回目は、リハーサルも兼ねて最後の打合せを行う。各回の参加者、実施方法等については記載しているとおりだが、例年と異なる点は、2回目の分科会運営者研修会には、全国からの発表者にも参加していただく。早い段階から道内発表者のみならず全国の発表者ともコンタクトをとり、発表の趣旨や内容について、運営担当者全員で共有することで、分科会本来の趣旨と視点に沿った分科会運営を進めていきたい。2月上旬には道小研修部より既に発表者と連絡をとり、進捗状況などについて共有を図っており、3月に再度連絡をする予定である。

理事研資料に「研究発表者指名報告のお願い」という文書を掲載しているが、研究発表者選出の依頼については、昨日と本日の午前に、研究発表担当地区の理事、事務局長、研修担当者宛に依頼文書を送付させていただいた。発表者が既に決まっている地区もあるが、今後、研究発表者の速やかな選出をお願いしたい。また、分科会マニュアルには、原稿執筆要綱を掲載しているので研究発表者に伝えてほしい。地区の力を結集し、研究発表者の原稿作成を支援していただきたい。

分科会マニュアルに第1回分科会運営者研修会の内容や大会までのスケジュールが記載されているが、第1回では、研究発表者から発表原稿原案を提示していただき、分科会運営者全員で原案についての検討を行うので、発表原稿の原案は5月7日までに事務局幹事に送付していただきたい。また、新年度の円滑なスタートに向けて、地区内における引継ぎについても遺漏なきようお願い申し上げる。分科会運営者研修会で使用する分科会マニュアルを読んでいただくことで、研究発表者及び分科会運営に関わる方が見通しをもって取り組めるのではないかと考える。

分科会マニュアルについては理事研終了後、速やかに道小ホームページに掲載するので、そちらからも確認できることを伝えていただきたい。

また、令和9年度以降の研究関連分担を掲載している。前回の理事研からの追加事項としては、令和9年度全連小福島大会での発表担当分科会について、日高地区に第11分科会、根室地区に第5分科会を担当することを提案するため、日高・根室地区内での共有をお願いしたい。

## (2) 第69回総会・研修会について

### ①第69回総会・研修会の日程、議案及び令和7年度会務報告について …… 稲上 敏男 事務局長

令和8年度5月に開催する第69回総会・研修会の



日程と議案について説明する。日程については、令和8年5月11日(月)ホテルライフオート札幌において、10時30分から15時での開催予定である。

午前は、令和8年度の新役員の承認、令和7年度で退任される役員への感謝状の贈呈、来賓からの祝辞、道教委講話を行う。昼食休憩を挟み、午後からは、第5ブロックから2人の議長を選出し、令和7年度会務報告、総会宣言文起草委員会、議事が行われる。

会務報告については、第69回総会・研修会の開催要項に沿って、令和7年度の機関会議、第68回北海道小学校長会教育研究根室大会などについて報告する予定で、議案については、第1号議案から第5号議案が予定されている。

### ②令和7年度会計決算・監査報告及び令和8年度一般会計予算(案)について

……………下山 弘美 会計理事

令和7年度会計決算及び監査については、4月4日(土)に開催する第2回運営委員研修会において、一般会計及び特別会計の執行についての監査を行う。結果については、第69回総会・研修会で報告する。

続いて、令和8年度会計予算編成、一般会計予算編成についてである。

令和8年度については、令和7年度の執行状況を基本とするが、今後の会員数の減少を受けて、引き続き緊縮型予算編成にあたる。具体的には、令和8年度も全道会長研修会、第2回及び第4回理事研修会、3回の分科会運営者研修会をWeb開催するなどして、旅費・会議費等の削減を図り支出を抑えていく。

道小の会費については、今年度と同額を予定している。また地区送金連絡費についても、今年度と同額を各地区に支出する予定である。

続いて、特別会計、地区研修補助金についてであるが、各地区には、会員数によって決められた基準額が支出されている。地区校長会活性化事業として支出している「研究実践交流事業掲載謝金」についても、今年度と同額を各地区に支出する予定である。

「全連小海外教育事情視察参加補助」は、全連小が実施している「海外教育事情視察」に参加するための補助で、昨年度、訪問国をニュージーランドとして実施され、5ブロックから参加者を募ったが、希望がなかったため補助の支出はなかった。海外教育事情視察は隔年実施としているが、令和8年度は特例として実施することとなり、1ブロックから参加者を募っている。参加者には、道小から170,000円の補助金を拠出する。また、全連小からも同じく170,000円の補助金が支給される。

なお、道小基金については、小中一貫校や義務教育学校の校長として発令された場合、基金の拠出額は平成28年7月15日の小中合同研修会の場で検討し、道小と道中への拠出額の割合を4対6とすることが確認され、全連小と全日中との申し合わせ内容に準じているのでご理解いただきたい。拠出額については、今年度と同額を予定している。



**③令和8年度北海道小学校長会活動計画(案)について ……佐藤 忍 活動計画作成委員長**

北海道小学校長会令和8年度活動計画(案)を提案する。令和8年度の活動計画作成に当たり、全国連合小学校長会の活動、文部科学省や北海道教育委員会の施策などを捉え、それらとの関連性を図り、北海道小学校長会が活動内容とした根拠や方向性が分かるような端的な表現を行うことに留意した。そして、教育振興基本計画、中央教育審議会の答申、北海道総合教育大綱、学校における働き方改革北海道アクション・プラン、全国連合小学校長会令和7年度活動計画及び令和8年度活動計画案、北海道文教施策・予算策定に関する要望に対する回答などの文書を用いて、文言の精査を図り、内容項目の移行などの検討を行った。活動計画作成委員会は全部で6回行い、この間、事務局役員研修会、事務局研修会を2回ずつ経て、最終案を取りまとめた。最終案について、各部の理事委員からは、「根拠を明確にした文言や表現であり、細部にわたり検討が図られたことが分かる」などの意見をいただいた。



それでは、令和8年度活動計画(案)を提案する。  
I 活動方針

北海道小学校長会は、結成以来、北海道の小学校(義務教育学校を含む)の教育充実・発展のため、組織の総力を傾注して研究と実践を積み重ねるとともに、積極的な施策提言や要望活動を通し、教育条件の整備・充実に努め、多くの成果を上げてきた。

これからの社会は、少子化、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の発展といった大きな変化があいまって、社会の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。そうした中、学校には、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を目指した教育の推進が求められている。

そのため、校長は、新しい時代に対応した明確なビジョンと鋭い時代感覚の下、創意ある取組と組織の活性化を図り、「生きる力」を育むカリキュラム・マネジメントの推進に努めなければならない。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現、地域の資源を活用した教育活動の展開などにより、自立した人間として、多様な人々と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」を実現していく必要がある。

また、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、学校における働き方改革の実現、教職員の定数や処遇の改善、人的措置の充実、教員の人材確保と資質能力の向上など、山積する緊急かつ重要な課題に対応していく必要がある。さらには、北海道における災害等での教訓を生かした危機管理の対応や学校安全の推進を図らなければならない。

本会は、このような状況を深く認識し、「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に

挑戦する子ども」を育てるため、組織の総力を挙げて「チーム北海道」として各地区校長会や関係機関等との連携をより一層強化し、調査・研究活動の充実により課題解決に努め、道民の信託に応える学校経営を推進していく必要がある。そのために、校長は、自らの使命を自覚し、創意ある展望と計画の下、指導力を発揮して、学校組織の活性化と教職員の資質能力の向上等に努め、信頼に応え活力ある学校づくりに全力で取り組む。

- 1 学校経営にかかわる諸課題への迅速で的確な取組を通して、「令和の日本型学校教育」の実現に努める。
- 2 教育的愛情と相互の信頼に基づく、活力ある学校経営の推進に努める。
- 3 教育活動の質の向上を図り、「生きる力」を育むカリキュラム・マネジメントの推進に努める。
- 4 児童理解を深め、時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育、多様性を尊重する教育の組織的な推進に努める。
- 5 「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子ども」を育てる研究活動を推進し、研究成果の交流を図るとともに、校長自らの研鑽に努める。
- 6 新たな時代に応じた教職員の資質能力の向上に努める。
- 7 本道教育をめぐる教育諸条件を把握し、その改善と整備・充実、要望活動に努める。
- 8 教職員の処遇の改善に努める。
- 9 教職員の福利厚生施策の充実に努める。
- 10 北海道小学校長会の組織の強化と活動の充実に努める。

活動内容は、掲載のとおりである。

令和7年度活動計画からの修正点は、議案の見え消し版をご覧ください。

**④総会宣言文について……岩村 鋭介 経営部幹事**

令和8年度総会宣言文(案)の作成について提案する。

令和8年度の総会・研修会に出席していただく代議員より、事前に各ブロック1名の総会宣言文起草委員を選出していただき、起草委員会を立ち上げる。その委員会において、宣言文案を作成し、5月11日(月)第69回総会・研修会において、「総会宣言決議について」として提案する。



なお、宣言文の起草については、全連小や道小の活動方針に基づいて検討し、作成していくことになっている。

**(3)第69回総会・研修会までの諸計画について ……村上 智樹 事務局次長**

第69回総会・研修会までの諸計画は、表にあるように各部活動の概要等についてまとめているところである。今後は精度を高め、総会・研修会に向けて計画どおりに進めていきたい。

**①総会・研修会までの地区校長会代表者の報告について**

地区校長会代表者の氏名報告については、4月1日から総会・研修会までの間、地区代表者として道小事務局との窓口を担当していただく地区校長会代表者の報告を2月9日付けで各地区事務局長にお願いしている。報告期限は3月6日(金)で、決まり次第、道小事務所へ報告をお願いする。4月1日付けで、全国大会申込み文書を地区校長会代表者へ送付する予定である。

## ②総会宣言文起草委員の選出について

総会宣言文起草委員会は、各ブロックから1人の委員と道小幹事1人を加え、計6人で構成する。本年度中に、各ブロックからの起草委員選出地区を相談の上、決定をお願いする。そこで、役員名簿のブロック最上段の地区理事は、ブロック調整役として声掛けをお願いしたい。

1ブロックは石狩 八木橋理事、2ブロックは上川 石坂理事、3ブロックは渡島 五十嵐理事、4ブロックは空知 國行理事、5ブロックは十勝 笠松理事にブロック内の声掛けをお願いしたい。選出地区が決まり次第、ブロック調整役の理事は、3月中に道小事務所へ報告をお願いする。起草委員選出地区に当たった地区は、総会・研修会に出席する代議員の中から起草委員を選出することになるので、4月3日(金)まで道小事務所に起草委員の氏名報告をお願いする。

## ③総会・研修会議長の選出について

総会・研修会と年間5回の理事研修会の議長は、副会長の持ち回りで行われているが、総会・研修会については、該当ブロックの代議員2人を選ぶことになっている。

令和8年度の議長は、5ブロックから2人を選ぶことになる。5ブロックは、本年度中に相談の上、総会・研修会の議長を選出する2地区の決定をお願いしたい。決定後は本年度中に、そして、議長選出地区は代議員の中から議長を選出し、4月3日(金)までに道小事務所へ氏名報告をお願いする。

## ④全連小総会代議員の選出について

令和8年度的全連小総会には、全連小常任理事として会長、全連小理事として事務局長・副会長6人の計8人と、代議員9人の、合わせて17人が出席となる。令和8年度の会員数から令和8年度代議員数は9人となっている。この代議員の9人は、令和8年度に副会長を選出した地区以外の14地区の中から選出していただく。よってブロックより1地区ずつ辞退していただくことになる。辞退する1地区を各ブロックで相談の上決めていただく。本年度中に、代議員を辞退していただく地区をそれぞれ決めていただき、結果を地区事務局長と道小事務所まで知らせていただきたい。先ほどのブロック調整役の理事は、ブロック内の声掛けをお願いする。

## (4)令和8年度の要望活動について

…………… 丸岡 哲也 事務局次長

第4回理事研修会において、令和8年度の「北海道文教施策・予算策定に関する要望書」作成に向けて、要望等に係る集約表を提示した。その表をエビデンスとし、各地区の情勢を的確に掴みながら、道小が主担当となって作成し、道中や道公教の役員とも協議・確認を行ってきた。三者連名となる要望書について、書面にて提案する。

要望事項の後ろに【新規】と記載があるものは、令和8年度要望書に新たに付け加えた内容である。「児童数に関わらず、小学校における学級担任等の週授業時数の削減に向けた教員配置の改善についての国への要請」「通級指導教室の開設に伴う教員の配置基準の緩和」「ヒグマからの被害を防ぐための安全教育の充実と、校舎周辺及び通学路の安全確保に努められたい」など7点を新規項目又は要望事項とした。

さらに、従来の項目や要望事項についても、各地区や団体からの課題等から文言等を整理している。新規要望事項や、文言の追加・修正箇所は、赤字で記しているのでご覧いただきたい。

## (5)今後の地区別教育経営研究会について

…………… 八田 博之 経営部副部長

地区別教育経営研究会（以下地教研）について説明する。経営部は北海道中学校長会と隔年で業務を分担しており、今年度は道中が担当であったが、今後の地教研の在り方について道中と協議している。



地教研は、主催は道小・道中となっているが、主管は各地区の校長会とし、各地区が運営を託され、実務を担当しての開催となっている。

地教研の目的は、「北海道小学校長会・北海道中学校長会の活動について理解を深め、組織の充実・強化を図ること」「北海道小学校長会・北海道中学校長会、及び地区校長会が増えている教育経営上の具体的課題について研究することにより、その解決の方策を探り、校長としての職能向上を図るとともに、学校経営の充実に資すること」である。

企画・運営上の基本事項として、開催期間をはじめ、法制に対する研修も各地区で必要不可欠のため、各地区の工夫により内容の充実を図ることを含め、組織を挙げて問題解決に努める研修となることを今後も継続していきたい。そして、「要望書に対する道教委の回答を共有すること」「学校経営の資料や法制研究収録の活用を図ること」にも取り組んでいく。

要望書に対する回答は、これまで口頭で伝えていたが、この度、道教委からデータでの配付の了承を得ることができた。そこで、次年度から道中・道小の派遣役員及び幹事からの情報提供を事前に会員に配付できるようにしたい。まず、パワーポイントで「同小・道中の組織と業務内容」について説明する。そして、「道中の教育情勢」または「道小の教育情報」、データでの配付の許可をいただいた「要望書に対する道教委の回答」をデータで提供する。また、毎年発行している「学校経営の資料」の冊子は、もっと活用できるようにしたいと考えている。

道小・道中からの派遣は、どちらかの役員と幹事1人ずつの3人体制で行い、主たる目的は「主催者挨拶」「情勢報告」「質問事項への回答」としており、講

師的な存在で派遣するのではないことを確認いただきたい。

また、質問事項については、地区会員の意見を集約・整理・厳選をし、簡潔に記載していただきたい。要望書の内容が重なることも多いため、地区の意見として要望書に記載されている内容や「学校経営の資料」「法制研究収録」等に記載されている内容については、それらを活用していただきたい。質問が見当たらない場合は「なし」と記載して報告書を提出し、締切りについては道中から送付された文書にて確認いただきたい。

## (6) 令和8年度道小役員の選考について

### ①会長並びに事務局長の選考

…………… 脇本 麻友美 役員選考委員長

北海道小学校長会会則第6条で、会長・事務局長は理事研修会で決定し、総会で承認を得ることになっている。したがって、本日の理事研修会に先立ち、午後1時30分より役員選考委員会を開催した。選考の結果、令和8年度北海道小学校長会会長は、札幌市立美しが丘緑小学校 稲上 敏男 校長、事務局長は札幌市立伏見小学校 山田 健一 校長をお願いしたい。



### 【新会長 就任挨拶】

田邊会長から北海道小学校長会会長という大役を引き継ぐこととなり、その責任の重さに身の引き締まる思いではあるが、会長の就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

北海道小学校長会は、来年度で69年目を迎える伝統ある組織である。「正論を以って正道を歩む」の理念の下、全道の会員一人一人が北海道の小学校教育の充実・発展のために、真摯な取組を続けてきている。これからもその伝統を大切に、皆様と力を合わせ、一歩ずつ確実に前進してまいりたいと考えている。

さて、昨年9月に学習指導要領改訂に向けた論点整理が、中教審の特別部会で示された。次年度中には答申が出される見込みで、内容についての理解を深めていく必要がある。そのような中、道内の教育現場に目を向けると、いじめ・不登校等への対応をはじめ、特別支援教育の充実、働き方改革の実現、教職員の定数や処遇の改善、教員の人材確保と資質能力の向上、危機管理の対応など、緊急かつ重要な課題が山積している。

私たち校長は、このような教育改革の推進や教育課題に先頭に立って取り組んでいかななくてはならない。各学校で、目の前にいる子どもたちに必要な教育活動を学校経営方針に明確に示し、全教職員が同じベクトルで進めていくためにも、私たち校長自身が研鑽に励み、学び続けることが重要である。

その最大の取組が研究大会である。次年度は、いよいよ全連小北海道大会が札幌市で開催される。先日開催された全連小の全国大会引継会では、北海道がこれまで研究活動で大事にしている部分について主張し、概ね承認された。したがって、今年度の根室大会での大きな成果となった分科会でのICT活用をはじめ、「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という北海道教育研究大会の精神を大切に受け継ぎながら分科会を開催していく。

また、今年度は、札幌市小学校長会と準備委員会を立ち上げ、緊密な連携と意思疎通を図りながら、会場や講演、分科会運営の計画などを立ててきた。次年度は実行委員会へと移行し、大会の成功に向けて準備を加速していく。北海道の分科会の在り方を全国に届け、一緒に学びを深めるためには、札幌市小学校長会を中心としたチーム北海道の力が必要となるため、ご協力をお願い申し上げます。

次年度の全連小北海道大会及び道小札幌大会が、全国の校長とともに、校長の職能向上と教育の質の向上を目指して研鑽を積む大切な機会となることを期待している。

結びに、道小として道内に20ある各地区校長会と、より一層連携し組織を活性化させるとともに、教育関係諸団体との連携も図りながら、山田事務局長共々、「チーム北海道」で北海道教育の充実に努めてまいりたいと考えている。

今後も、各地区校長会のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

### ②副会長並びに監査委員候補者の選考について

…………… 下山 弘美 会計理事

会長と事務局長が決定したので、理事研修会終了後、各ブロックで相談いただき、副会長並びに監査委員候補者の選出地区を決めていただく。役員名簿の各ブロック最上段の理事の方に声掛けの世話役をしていただき、今年度中に決定して報告をお願いする。具体的な人選は、当該地区に一任する。必ず、結果を道小事務所と地区事務局長へ報告いただきたい。また、地区代表の理事候補者の選出もお願いする。地区代表の理事候補者は、当該地区に推薦を一任する。

### ③地区代表の理事候補者の選出について

…………… 下山 弘美 会計理事

副会長並びに監査委員候補者の選考については、各ブロックで相談いただき、今年度中に選出地区を決めていただきたい。具体的な人選は、当該地区に一任する。また、地区代表の理事候補者についても、当該地区に推薦を一任する。

これらの役員候補者は、総会・研修会の承認を経て正式に決定されることになり、総会・研修会への提案は会長が行う。

## (7) その他

特になし

**6 議長退任 …………… 根本 渉 副会長**

**7 連絡**

**(1) 第78回全連小研究協議会北海道大会の参加申込みについて**

…………… **松本 昌也 研修部副部長**

全連小北海道大会の参加期待数については資料のとおりである。毎回、割当数について問い合わせがある内容は、巡回役員などが割当数に含まれるかという点である。道小研究大会の場合は、全て含めた人数だが、次年度は全連小大会のため規定が異なる。全連小大会は、道小副会長は全連小理事の立場になるので、割当数には含まれない。副会長を選出した地区は割当数+1として申込みをしていただく。副会長以外でも巡回役員として分科会に参加できない場合は、その人数分を分科会の割当数から減らしていくことになるため、各地区に割当てられた総数は変わらないよう調整いただきたい。

次に、全連小北海道大会の申込みについてである。4月以降道小事務所から、「北海道大会のご案内」等を総会までの地区代表者に送付する。各地区では「参加割当数」を基に、参加者の取りまとめを行い、名簿を道小事務所へ提出いただく。また、大会参加・資料代(8,000円×地区参加人数分)については、所定の口座に振り込んでいただく予定である。詳しい日程等については、新年度に改めて説明する。

各地区で取りまとめた参加者の申込みは、5月から各個人において、Webフォームから行っていただく。詳しくは、本日配付の「北海道大会のご案内」を確認いただきたい。

- (2) 令和8年度組織のための諸報告について**
- (3) 総会・研修会出席代議員への案内状の配付依頼について**
- (4) 総会・研修会開催要項の配付依頼について**
- (5) 令和8年度の市町村別学校数<会員数>について**
- (6) 役職定年等を迎える会員の感謝状及び記念品について**

…………… **村上 智樹 事務局次長**

(2)から(6)まで連絡する。(2)令和8年度組織のための諸報告については、新年度組織のための調査書類を地区事務局長に発送している。No.1~No.9までの調査を取りまとめの上、期日までに報告をお願いする。日程やとりまとめの要領等の詳細については、資料を確認願いたい。(3)第69回総会・研修会の案内状の配付、(4)開催要項の配付の依頼、(5)令和8年度の市町村別学校数<会員数>、(6)役職定年等を迎える会員の感謝状及び記念品については記載しているとおりである。

**(7) 令和8年度諸会議予定<道小・全連小>について**

…………… **下山 弘美 会計理事**

第4回理事研修会から変更があった、来年度の役

員及び理事に直接関わる日程についてお知らせする。

1点目は、全連小常任理事会・理事会について、11月18日(水)の常任理事会が11月17日(火)へ、2月18日(木)・19日(金)の常任理事会・第255回理事会が、2月15日(月)・16日(火)へ変更となった。

2点目は、2月26日(金)の第5回正副会長研・理事研修会、役員選考委員会は他の会議との日程調整により、2月22日(月)に変更した。

3点目は、全連小北海道大会の実行委員会に関わる日程についてである。前回、全体研修会と分科会運営者研修会の日程は知らせたが、各部門会・係会の見通しが立ってきたので付け加えている。

ここで、4月、5月、6月の予定のみ再度確認する。4月4日(土)は、令和7年度の第2回運営委員研修会で、監査委員にお集まりいただき、最終の監査を行う。5月11日(月)は、第69回総会・研修会と第1回目の正副会長研修会である。翌12日(火)は、第1回理事研修会を行う。また、理事研後には分科会運営者研修会全体会を行う。分科会ごとの運営者研修会は、事前に日程調整の上、5月13日~5月20日の期間において分科会ごとにWeb開催する。5月21日(木)は、全連小第253回理事会、翌22日(金)が全連小第78回総会・研修会である。6月26日(金)は、全道会長研修会でハイブリッド開催となる。

道小・全連小の諸会議・行事一覧も併せてご確認いただきたい。

**(8) その他 …………… 丸岡 哲也 事務局次長**

**①全連小バッジについて**

「採用校長数、全連小バッジ配付数等の調査」に基づいて、全連小から届く関連文書を該当する校長へお渡し願う。

**②総会・研修会、正副会長研修会、第1回理事研修会について**

第69回総会・研修会、第1回正副会長研修会、第1回理事研修会及び第1回専門部研修会、第1回分科会運営者研修会全体会を、5月11日(月)及び12日(火)に、それぞれ記載にある時間に開催する。

**8 閉会の言葉 …………… 澤田 真次 副会長**

本日は今年度を締めくくる様々な議題への熱心なご協議を賜りお礼申し上げます。

振り返れば、今年度は本小学校長会にとって、全道一丸となって確かな一歩を刻んだ一年であった。最大の成果は、昨年9月に開催された第68回道小教育研究根室大会の成功である。根室管内校長会の多大なるご尽力、そして「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という理念の基、全道から集った会員が膝を突き合わせ、深く語り合ったあの熱気は、本会の絆をより一層強固なものにしたと確信している。 また、本日の報告に



あった各専門部・事務局において、持続可能な組織運営や研究大会の在り方について、多角的な視点からも検討が進められた。会員減少や教員不足といった厳しい情勢の中にあっても、私たちの歩みを止めないためのこれら一連の取組は、未来の北海道教育を支える確かな基盤となるはずである。

さて、来たる令和8年度は、いよいよ第78回全連小研究協議会北海道大会が開催される。本日は、札幌市小学校長会と一体となった準備委員会の進捗について改めて確認した。中教審で議論されている「柔軟な教育課程の編成」や「裁量的な時間」の活用といった大きな教育改革の動向を的確に捉えつつ、全国から集う校長を迎え、「北海道の教育の力」を示すために、今一度皆様のお力添えを賜りたい。

今年度の始まりにあたり、田邊会長からの冒頭の挨拶にあったように「笑顔のため、つながり、学び、挑戦する道小」というスローガンが掲げられた。私たちはこの一年、生成AIの急速な進化や複雑化する教育課題に対し、常にこの言葉を指針として歩んできた。このスローガンは、単なる標語に留まらず、私たちのあらゆる活動の底を滔々と流れ、組織を支え続けるものであったと感じている。本日の真摯な協議の根底にも常にこの思いが流れ、私たちの連帯を支えていたものと確信している。

令和8年度、北海道は全国の注目を浴びる大きな節目を迎える。今年度培った「つながり」を糧に、本道教育の振興のため全道一丸となって進んでまいりたい。

結びに、今年度をもって退任される役員には、これまでの多大なる貢献に心より感謝申し上げる。そして、引き続き職に当たられる皆様、稲上新会長、山田新事務局長を中心に、「チーム北海道」で令和8年度の全国大会成功、更には北海道の子どもたちの輝く未来のために、共に歩みを進めていただきたい。